

文化祭

2019.9.13~14

今年初めて2日間にわたり開催されました。

1日目は在校生のみ。
2日目は外に向けてオープンに。



72期 文化祭実行委員長

大杖 裕喜 (3年1組)

去る今年度の文化祭は八尾高校としては史上初の1.5日開催となりました。この原稿を書いているのは、そのホトボリも冷めやらぬ後夜祭の途中。閉会式を終えて間もなく、まだ微かに緊張の鼓動を刻んでいます。この佳きハレの日に至るまで、たくさんの人の支えがあって、生徒会の役員として、また、実行委員長として、最期まで役割を全うできたのだと思います。ありがとうございました。

はじめての1.5日開催。でも、特筆すべきは、文化祭を盛り上げたクラスの企画や、クラブ・有志のイベントです。例年にも増して、創意工夫に富んだ企画やイベントが一堂に会した本年、本当に魅力的な文化祭が完成しました。1.5日開催は、そのステキなイベント群の全てにスポットを当てることのできる、決してアタリマエではない出来事です。友達のこと、先輩のこと、自分ではない誰かの創作にふれる十分な時間に恵まれたことが今年度の文化祭の意義であると感じています。

気が付けば、この長く短い祭も終焉を迎えていました。このままじゃまだ終われないとばかりに、閉会式では、ダンス同好会さんによるパフォーマンスをはじめ、ギター部、軽音楽部、吹奏楽部による三部合同演奏…。きっと、みなさんの記憶にも鮮明なハズ。

閉会式で行なわれる表彰は、自分や、自分の仲間が制作してきた創作に大きな拍手を贈ること。この祭日までに取り組んできた過程を大切にしている行事であるということが、わたしが文化祭や後夜祭に魅せられたワケです。

そして、生徒会の担当者にとっては、3年生の引退という節目。わたしもサヨウナラということになります。奇しくも、わたしは実行委員長として、1.5日開催に取り組むことができました。新しい発見を共に喜んだり、思いもよらない出来事に笑ったり、大きく驚いたり…。もちろん、タイヘンなことあったけれど、でも、こうして、仕合わせと想えるのは、アタリマエのことではないです。役割と真剣に向き合うチカラをもっているメンバーに囲まれていたからこそ、ですね。長らく、本当にステキな経験をありがとうございました。生徒会は、みんなにワクワクを届けられる役割。それは、確かな誇りを以って言い切れる、とてもステキな役割です。



